

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 4月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600236		
法人名	株式会社 マーファ企画		
事業所名	グループホーム はなかわ		
所在地	石狩市花川東1条3丁目12番地 (電話) 0133-76-2877		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月19日	評価確定日	平成22年4月8日

【情報提供票より】 (平成22年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	10人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費16,500円	
敷金	有(35,000円)・無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やしま内科クリニック、荒木医院、石狩幸悝会病院、茨戸病院他
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、石狩市の地域のつながりの中で、その人らしい当たり前の生活を続けることを支えたいという運営者の思いから、平成15年に開設されました。バリアフリーの清潔な建物で利用者の自立した生活に配慮した作りとなっています。特に美味しい食事の提供には力を入れ、管理栄養士によるバランスの取れた献立を調理師の資格を持つ運営者が見た目や食べやすさに配慮しながら提供しており、利用者からの好評を得ています。デイケアの利用や医療との連携など、利用者一人ひとりの希望に応じて支援をしています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で課題となった「評価の意義と活用」は、全職員が自主的な取組みができるよう時間を掛けて実施されています。また、「運営推進会議を活かした取り組み」と「職員を育てる取り組み」は、改善策が講じられていますが、継続しての取り組み課題となっています。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員の自発的な取り組みを大切にし、5ヵ月前から準備を行ない自己評価に取り組んでいます。職員が分担して自己評価に取り組み、ユニットごとに取りまとめています。昨年の評価を踏まえ、現在のケアを見直しながら評価を行なっています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、石狩市や地域住民、家族や学識経験者の参加を得て平成21年度は6回開催されています。会議はホームの行事の同日に行ない、参加しやすいように工夫し、運営推進会議メンバーに利用者の生活する姿を直接見ってもらう機会として活用しています。会議の中では防災について地域から協力の申し出があるなど、今後も運営推進会議を通じた連携が期待されます。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム内外の相談窓口を知らせるとともに、ホーム内に意見箱を設置し、石狩市の総合福祉センターリンクルでも相談窓口があることを掲示しています。2ヵ月ごとにホームの便りを発行したり、また随時報告を行なう際には、家族の意向を汲み取る機会としており、寄せられた意見等はホームで検討し、運営に活かしています。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に参加し、行事や挨拶を通じた交流を図っています。ホーム周辺の花壇の手入れや畑の収穫のおすそ分け、ホームの行事などを通じて地域との付き合いを深めています。行事や利用者の楽しみ事のためのボランティアの受け入れなども行なっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の運営者の思いを盛り込んだホーム独自の理念をつくりあげています。地域密着型サービスに位置づけられたことを受け、地域とのつながりについても理念に盛り込んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員採用時に説明し、日常の業務の中で徐々に理解が進むように実際のケアの場面で伝えていきます。職員会議でも唱和し、尊厳を大切にされたケアの実践を理念に沿って考え、意識を高めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、地域のつながりを広げていくため、町内の花壇の整備や菜園のおすそ分けなど積極的に行なっています。ホームの夏祭りなど、地域住民の方々にホームを知ってもらう取り組みも継続して行なっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	5ヵ月ほど準備期間を設け、職員の自発的な取り組みを促しています。管理者が職員の質問に答えながら、分担して自己評価に取り組んでいます。チームでケアにあたるため、日ごろの業務を振り返り、実際に行なっていることを記載するように努め業務改善に役立てています。		

石狩市 グループホーム はなかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は21年度は6回開催されています。会場を近隣の喫茶店にしたり、行事の日程と合わせて実施するなど、参加者が出席しやすいように工夫しながら実施しています。会議の結果は職員が回覧し、共有しています。	○	運営推進会議の実施記録について、出欠の連絡票はありますが、出席者の記録がありません。今後は出席者の記録を行なうと共に更に多くの参加者が得られるよう、取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に石狩市の介護保険課や総合福祉センターリンクルの職員が出席しています。困難な事例などを相談したり、市役所から助言をいただきながら取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話などで随時連絡を行なうと共に家族の来訪の際に暮らしぶりや健康について伝えています。2ヵ月ごとに「ホームだよりいきいき」を発行し、担当職員から文章で様子を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情箱を設置しています。また、石狩市のリンクルなどでも苦情の相談ができることを掲示しています。相談苦情窓口を設置し、相談等があった場合は職員と共有し、改善や運営に反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が全利用者の情報を共有することで、ホームとしてのケアの統一を図っています。職員の異動について、利用者が理解しやすい言葉や方法で伝え、ダメージをなくすように、チーム全体で利用者を支える体制となっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月、会議に合わせ内部研修を行ない、利用者に関連のあるテーマについて学んでいます。しかし、外部研修については、ホームとして意向があり費用負担をしているものの、職員の積極的な参加には結びついていません。	○	ホームとして、職員が利用者に向き合う時間を大切にしているため、業務が管理者等に集中している状況があります。職員の育成を通じて介護力や知識を高め、向上心をもって働ける環境を整備し、業務を分担していくことを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市のグループホーム連絡会に参加し、同業者と交流する機会を持っています。管理者と職員は石狩市のリンクルで行なわれる研修会などに参加し、交流する機会を持っています。	○	ホーム運営の質的確保に関する取り組みの一つとして、他のグループホームとの交流や連携は、問題の解決などに役立ったり、職員の活性化などにつながります。交流の目的を明確化し、具体的な取り組みを行なうことを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前には見学を勧め、ホームの様子を知っていただいています。契約時に利用者の居宅を訪問し、ホームの説明を行なうと共に生活歴や入居前の生活の様子、希望などを確認しています。入居後も、理解しやすい言葉で伝えたり、ドライブに出かけたりとホームでの生活に馴染めるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意欲を大切にし、テーブル拭きや茶碗を洗ったりと、手伝いをいただいています。職員が利用者との会話の中から学んだり、繕い物をしてくれたりと、相互に支え合い、感謝の言葉を伝えています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で意思を伝えられる利用者が多く、難しい場合も、表情などから意思を確認するよう努めています。日々の記録用紙を工夫し、さらに介護生活記録なども活用しながら、把握と職員間の共有に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、利用者と家族の意向を大切にしながら、職員で話し合い作成しています。計画は家族に説明しながら意見を取り入れて、尊厳を大切に「あたりまえの生活」の実現を支援しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに介護計画の見直しが行なわれています。全職員がモニタリングに参加し、看護職など専門的な意見も参考にしています。利用者の状況に応じて、その都度見直しも実施し、日々のケアの中で、計画の実行が難しくなった場合や予兆を捉えた場合も検討を行なっています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問鍼灸や訪問美容など、利用者や家族の要望を大切に支援しています。図書館への同行など、利用者の生きがいや、選挙の投票や手紙、電話、家族の送迎など、社会とのつながりにも配慮して支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院の際には、文書で医師にホームでの生活の様子や体調が正確に伝わるよう工夫しています。受診記録を作成し、家族への報告や日常的な健康管理に役立てています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケアマネージャーから、利用開始前に「重度化した場合の対応に係る指針」を利用者および家族に説明しています。指針をもとに職員会議で話し合い、方針を共有しています。また、それに伴い、必要な関係機関にも相談を行なっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	薬の袋など、利用者の名前が記載された物にも配慮し、シュレッターなどを活用し、個人情報の保護に努めています。ケアの場面でも利用者の誇りやプライバシーを尊重し、対応しています。個人記録等も適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の身体的な状況や気分を大切にし、ゆっくりと休息をとり、日中を楽しく過ごしていただけるように配慮しています。利用者一人ひとりのペースを把握し、それに沿うように支援しています。		

石狩市 グループホーム はなかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理師の資格を持つ運営者が行ない、彩りや味付けは利用者から好評をいただいています。ゆったりと食事ができるよう、職員が食卓を共にし、楽しい雰囲気です。食事を楽しめるように工夫しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に4日の入浴日を設けていますが、好きな時間の入浴に応じるなど、利用者の気持ちに沿った支援を行なっています。入浴を拒む場合は職員が検討し、無理強いせず声掛けなどに工夫しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑では、ナスやきゅうりなど多くの野菜を栽培し、利用者が楽しみながら育てています。利用者の生活歴や特技などを活かし、ホームでの役割をお願いし、見守り支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望と天候や体調に合わせてながら、外出の希望に沿って支援しています。天候の良い時期には、弁当を作って出掛けたり、ドライブを楽しむなど、閉じこもりがちにならないように配慮しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員に周知し、ホーム内にも掲示を行なっています。鍵を掛けることの弊害についても学び、利用者の自由な生活の大切さについて共有しています。ユニットごとの入り口に鈴を設置し、外出の兆候を把握するよう工夫しています。		

石狩市 グループホーム はなかわ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施と火災通報装置などの使用方法などを確認しています。グループホーム火災事例を受け、ホーム内の防火点検と職員の意識を高めるため、話し合いや非常時の手順の再確認を行なっています。	○	今年、スプリンクラーの設置も予定しており、近隣の24時間営業の企業などに非常災害時の協力を要請するなど、非常災害時に対する備えを進めています。今後も継続して利用者の生命を守るための取り組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者の管理栄養士の献立により納入されており、一日の摂取カロリーはおおよそ1550キロカロリー、水分は1500～2000ミリリットルとなっています。献立は医師のアドバイスもいただき、摂取量の記録も行なっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はバリアフリーの広々とした作りで植物を多く育てており、家庭的で清潔な雰囲気となっています。トレーニングマシンなどがあり、冬でも運動不足にならないように配慮されています。加湿器などを備え、温度や湿度、明るさも適切に調節され、居心地よく過ごせるように保たれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の馴染みの家具や生活用品を持ち込み、一人ひとりの好みが反映しています。安心して過ごせるよう職員と一緒に整え、加湿器なども利用し、快適に過ごせるよう工夫されています。		

※ は、重点項目。